

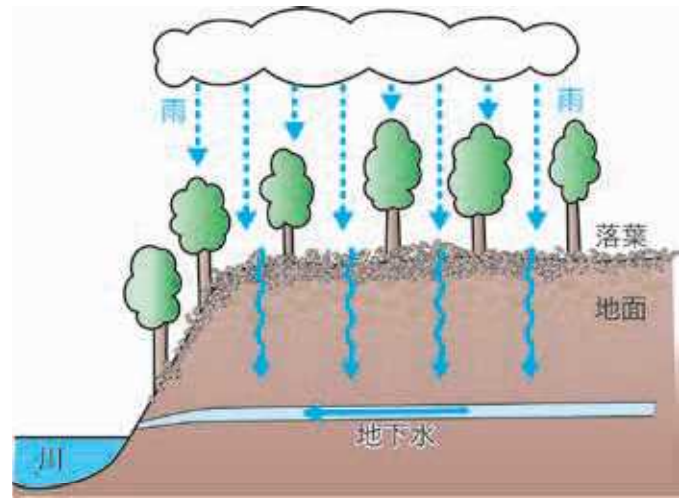
## (2) 水道水源林からダム、せきへ

わたしたちの所にとどけられる水は、どのようなところを通ってくるのでしょうか。

### 水道水源林のはたらき



▲水道水源林



▲雨はやわらかい土にゆっくりしみこみます。

### 水道局の人の話



森林では、落葉などが積もり、スポンジのようなやわらかい土が作られます。ふった雨はこの土にたくわえられます。

このように、水をたくわえておくことができる森林を「水道水源林」といいます。その役目から「緑のダム」ともよばれています。

たくわえられた水は、長い時間をかけて少しずつ川に流れます。

→ 25・26 ページを見てみよう。

### ダム (貯水池) のはたらき



▲小河内ダム (貯水池) (奥多摩町)



小河内ダム (貯水池) は、日本で一番大きい水道専用ダムだよ。何という川の上流にあるでしょう？ (25 ページで探してみよう。)

### 水道局の人の話



ダム (貯水池) は、いつも安定して水を送るために、川などの水をせき止めて、水をためておくところです。雨の量の变化や使う水の量の变化によって、川に出る水の量を調節しています。

ダム (貯水池) は、他の県にもたくさんあります。

→ 13 ~ 18・22 ページを見てみよう。

せきのはたらき



▲羽村取水せき (羽村市)

水道局の人の話



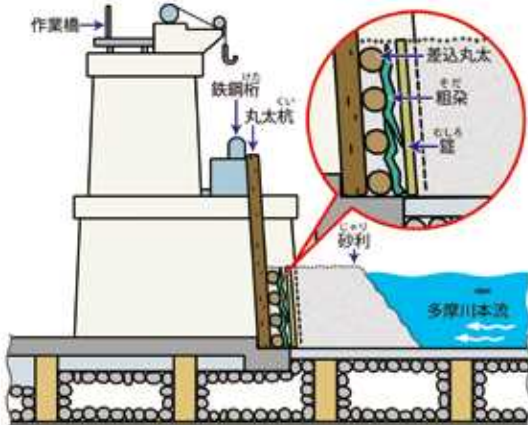
せきは、川に流れる水を取り入れるところ。川の水の量の変化に気をつけながら水を取り入れています。

また、取り入れた水を分け合って使っているところもあります。

→ 19・20 ページを見てみよう。



▲投渡せき開放



▲羽村取水堰の断面図

●羽村取水せきの「投渡せき」

羽村取水せきは、「投渡せき」とよばれる種類のせきです。

投渡せきとは、川に鉄の桁（柱と柱を結ぶように渡したささえ）を渡し、その桁に丸太をかけ、そだ（木の枝をたばねたもの）、砂利などをしきならべてつくったものです。

横に渡した松の丸太をたて棒でおさえていて、台風などで川の水かさが大きく増したときは、このささえを取ることで、せきを取りはらい、洪水をふせぎます。

この方法は、今から360年以上前（江戸時代）に「玉川上水」がつけられたときから使われています。

左の写真は平成23（2011）年9月に台風15号が発生したとき、開放された投渡せきです。

江戸時代の方法を今も大切にしているんだね。

